



大阪出身。上京後、メジャーレーベルに所属しながらも様々な状況下で一度は歌手の道を断念。その後、1950年代から60年代にかけて国民的ブームとなった歌唱喫茶のはしりである「ともしび」のトップ歌手として活躍。数々の人の心にともしびをてらした。その間NHKオーディションに合格する他、青柳常夫と「酒の好きな獅子座の男と猫っかぶりのかに座の女のコンサート」をリリース、好評を博した。1988年に「ともしび」を退社後は、金城広子歌唱教室主宰として300名を超えるレッスン指導を継続的に行う。一時期表舞台を退いたが、2004年初のオリジナルフルアルバム「メランコリア」を五木寛之、売野雅勇の作詞で発表。六本木「スイートベイジル」にて復活コンサートを開催、超満員の聴衆を魅了した。2007年「金城広子の私こう思いますねんけんど」2010年には「旅路の春」をリリース。以後も毎回、満員となるコンサートを成功させている。



10代後半より音楽を立体空間としてとらえ、音による舞台美術を創作。叙情的なサウンドコラージュに生演奏を重ねて行く手法で、森山開次など、ダンサーとのコラボレーションを重ねる。コレオグラファー香瑠鼓の作品「SHINLA」「MANDALA」でのダイナミックなサウンドは、日本、ヨーロッパで、観衆を東洋的な宇宙観へ誘った。2009年にはスウェーデンのヴィジュアルアーティストTeresa Wennbergの作品に曲を書き下ろし、人間の細胞の中を行くミクロの旅を演出。現在は音響空間デザイナーとしても、ギャラリー空間、サロンなどの音空間演出に着手する他、NHK教育テレビ『てれび絵本』『BSおかあさんといっしょ』や他、土居裕子をはじめ多数アーティストのサポートや楽曲提供をしている。



東京都出身。国立音楽大学大学院修了。作・編曲家、ピアニスト、コンサートディレクター、サウンドプロデューサーとして、世界的なオーボエの名手である宮本文昭(元ケルン放送交響楽団首席奏者)をはじめ木村弓(sop)、本田美奈子(sop)、米良美一(vo)、キャサリンジェンキンス(vo)、ラッセルワトソン(vo)、川井郁子(vn)、稲垣潤一(vo)、西城秀樹(vo)など様々なアーティストを担当、クオリティの高い音楽制作を通してその活動を支えている。2000年作曲作品が文化庁芸術祭新人賞を受賞。2015年には藤澤ノリマサ、古川展生と「レジェンド オブ クラシックス」(レジェクラ)を結成、今夏「Prologe」をリリースした。繊細で大胆な自身のピアニズムを基本として構築するアルバム作りやコンサートの制作は他者には無い大きな特徴である。

【塩入俊哉ブログ】 <http://aquarellerecords.seesaa.net>

